

## いろいろな秋を観察する(秋の企画)

生活療育支援科 高西 人麿

11月25日(水曜日)生活療育支援科行事「秋の企画」を行いました。  
今年、「いろいろな秋を観察する」を共通テーマにして、新型コロナウイルス感染予防のため、各階の病棟廊下等を会場に趣向を凝らして行いました。

### <病棟対抗 スポーツ大会(1階病棟)>

焼きりんごと焼きいもの香りが漂う中、1A対1Bの病棟対抗で「1階 スポーツ大会」を行いました。競技はスマートボールと玉入れです。スマートボールで「大当たり」が出た数と、玉入れで入った玉の数の合計で競いました。玉入れと結果発表は、国立競技場を背景にしたVR映像を制作し、病棟ダイルムのテレビに中継しました。結果は僅差で1B病棟の勝利!それぞれの病棟に、生活療育支援科長から、優勝と準優勝の賞状と賞品が授与されました。



### <「食欲の秋」を味わう(2階病棟)>

2階の廊下を焼きリンゴと焼き芋を乗せた屋台が、「いしやーきいもー」と行き来しました。芋やリンゴの香りを感じるだけでなく味わうようにして口を動かす方もいました。天井の果物を見ながら、壁面の実りの木に葉っぱカードに食べたいものを書いて貼っていききました。落ち葉やプチプチシートを敷いた廊下を踏み、秋の音を楽しむと笑顔が見られ、束の間の「食欲の秋」を体験されました。

### <音楽劇とゴッホ喫茶で「芸術の秋」(3階病棟)>

3階は、病棟ダイルムで「アリとキリギリス」の音楽劇と生活療育支援科の活動室3で「夜のカフェテラス」いう名画のあるカフェ体験をしました。劇では利用者さんがありさん役になり、スイッチを押して季節を変えたり、食べ物を集めたり、キリギリスと一緒に楽器を演奏して劇を楽しみました。カフェでは、リンゴ、焼き芋、アップルティの香りを味わい、職員がゴッホや秋にまつわる豆知識を披露し、クイズを出題するなど、リラックスした秋のひとときを味わいました。



コロナ渦で心にゆとりが持てない昨今ですが、利用者の皆さんの笑顔をたくさん拝見できてほっとしました。ご来場ありがとうございました。

〒183-8553  
東京都府中市武蔵台2-9-2  
東京都立府中療育センター  
電話 042(323)5115  
FAX 042(322)6207

\*-\*-\*ホームページもご覧ください\*-\*-\*  
<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>

# 府中療育センター新聞

東京都立府中療育センター 第515号 発行日 令和2年11月30日

## 秋の音楽会

2B病棟 福祉職

10月5日(月曜日)2B病棟ではボランティアの星空はるかさんをお招きし、ピアノ演奏による「秋の静かなコンサート」を開催しました。

ダイルムにソーシャルディスタンスをとりながら、ピアノの前に並ぶと、利用者の皆さんのわくわく感が伝わってきました。演奏が始まると、馴染みのある懐かしい曲の演奏や、職員が歌を口ずさむと、笑顔がこぼれ、穏やかな表情もみられました。10月のお誕生日を迎えた人には、「Happyバース



ディー」の演奏と歌のプレゼントがあり、手をたたいて喜びを表していました。また、リクエストして演奏していただいた「瀬戸の花嫁」に感動し、目を潤ませるという場面もありました。途中には「イントロクイズ」があり、曲名を告げずに3曲の演奏がありました。聞き覚えのある曲ばかりで、音楽が流れると、表情がパッと明るくなる様子もみられました。楽しい時間は過ぎるのが早く、あっという間の30分間でしたが、利用者さんの笑顔から職員も元気をもらえ、穏やかな秋のひとときを過ごせました。

演奏していただいた、星空はるかさんに感謝します。ありがとうございました。

## 令和2年度東京都永年勤続感謝ほか伝達式

事務室広報担当 石田 達矢

10月1日(木曜日)に永年勤続等伝達式を行いました。今年の東京都永年勤続感謝状贈呈者は9名、公益財団法人日本重症心身障害福祉協会永年勤続者表彰者は3名でした。伝達式では、東京都認定技能職員として認定された職員1名に認定証の交付も行いました。皆様のみずみずの御活躍を期待しています。



## 新人看護師さんにインタビュー！！

今年4月に、府中療育センターの職員となった2名の新人看護師さん。6月間にわたる臨床研修が修了しました。研修を終えた新人看護師さんと、プリセプター(指導役)さんに取材を行いました！

### 新人看護師 鈴木 美波 (3A病棟)

就職を決めたきっかけは前職での経験からです。重症心身障害児の保育をしている中で、笑顔が輝いており自分なりの表現方法で気持ちを伝えてくれる姿に、働く私が癒され元気をもらっていました。しかし医療的ケアも多く、看護師でなければできないこともあり、利用者さんが待っている姿に力不足を感じる事が多々あったので、看護師を目指しました。



阿部プリセプター(左)、鈴木さん(右)

センターにはボランティアで来た時に、職員と利用者さんの間では言葉だけではなく、様々なコミュニケーションを行い信頼関係が築かれているのを感じました。入職した今でも、先輩の関わり方から日々多くのことを学んでいます。先輩方からの温かいご指導、手厚いフォローから利用者さん一人ひとりの個別性・関わり方を学び、少しずつですが利用者さんの気持ちを理解することが出来てきたと思います。まだまだ知識・経験不足なことが多いですが、利用者さんの小さな変化に気付き、気持ちに寄り添えるよう努めていきます。

### プリセプター 阿部 由佳 (3A病棟)

新人指導にあたり心がけたことは、病棟全体で育てることでした。そのためにコミュニケーションが良好にとれるよう、声掛けを多くするようにし、先輩方からも直接指導を実施してもらえるように依頼しました。指導を受けたときは、指導された内容をよく聞き、その指導をされた理由を理解できるようになることが大切であることを伝えてきました。

人間関係の構築、仕事を覚えることや新しい環境に慣れること、特に今年度は新センターへの移転もあり、本当に大変な日々だったと思います。

一つひとつの課題をコツコツとクリアし、一生懸命にスタッフとのコミュニケーションをとり、頑張っている姿を見ていると頭が下がります。

### 新人看護師 天井 千晶 (2D病棟)

府中療育センターを希望してきました。重症心身障害児(者)についての知識が不十分なため、看護する際にどのような配慮が必要なのかかわからず不安でした。しかし、研修で重症心身障害児(者)に対するコミュニケーションの取り方や食事介助、経管栄養方法、人工呼吸器管理などの基本を学び、きめ細かい先輩方の指導により利用者さんの個別性を踏まえた看護を体得しているところです。



天井さん(中央)と病棟スタッフのみなさん

利用者の方々は、それぞれとても個性があり、意思や感情表出も異なります。今後は、『コミュニケーションを大切に』をモットーに利用者さん一人ひとりを理解しながら状態把握のスキルを磨き、異変を早期に察知できる看護師になれるよう日々頑張りたいと思います。

### プリセプター 守屋 妙子 (2D病棟)

2D病棟は妙齢なお姉さまスタッフが多いのですが、そんな中に若く爽やかな風を運んでくれたのが天井さんでした。

戸惑いながらも利用者さんに優しく接する姿に、遠い昔の自分を思い出したのは私だけではないはずです。天井さんが努力し日々成長している姿に、私達もとても良い刺激をもらっています。

1年目はきっと、指導を受ける側も指導をする側も大変な事が多いと思います。けれど、それを一緒に乗り越えていけたら嬉しいなと、スタッフ一同思っています。

そして、5年後、10年後、天井さんが妙齢なお姉さまになっても、ぜひ今のその素敵な笑顔を忘れず、長く看護師を続けてくれることを願っています。



鈴木さん(左)と天井さん(右)

